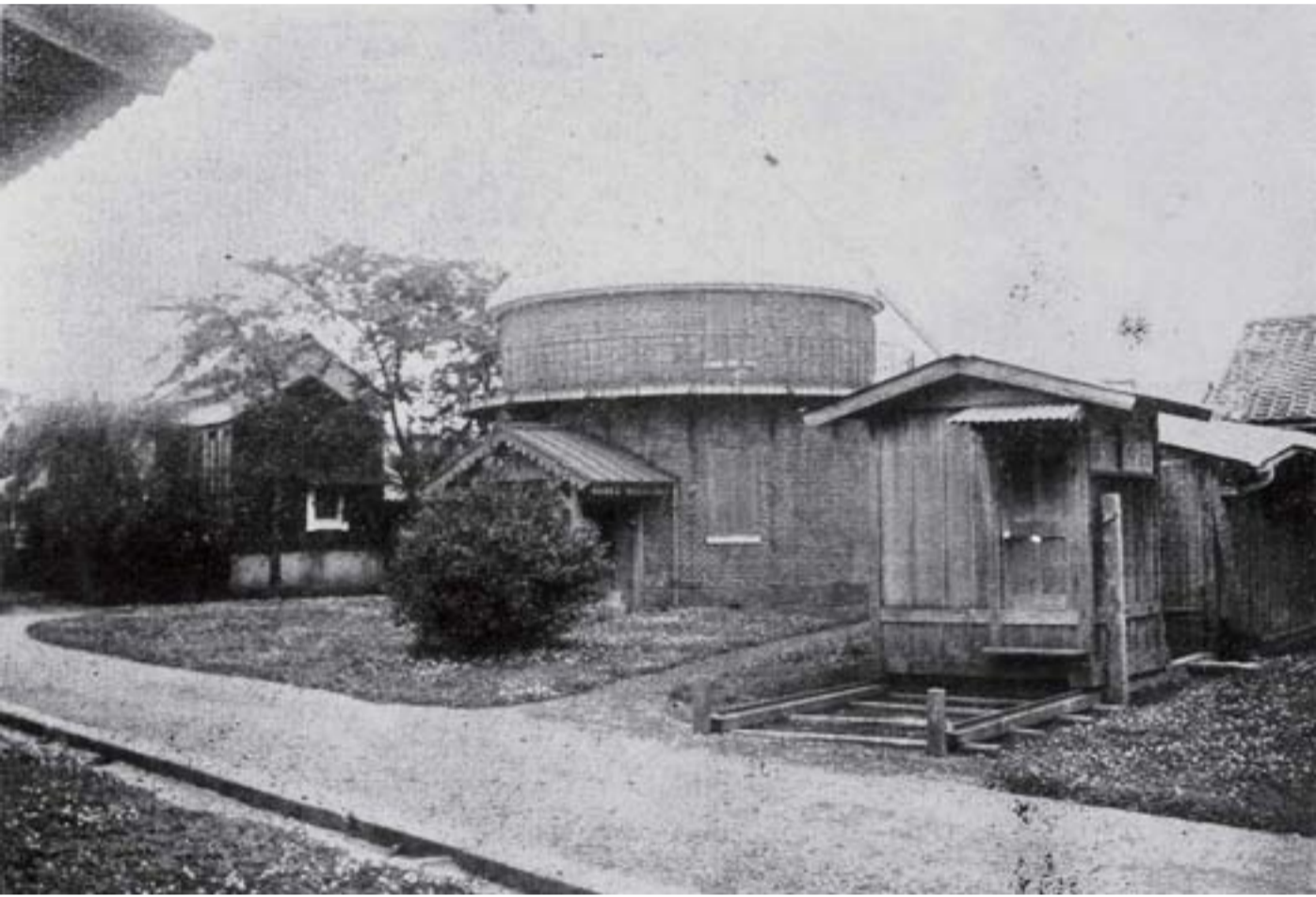


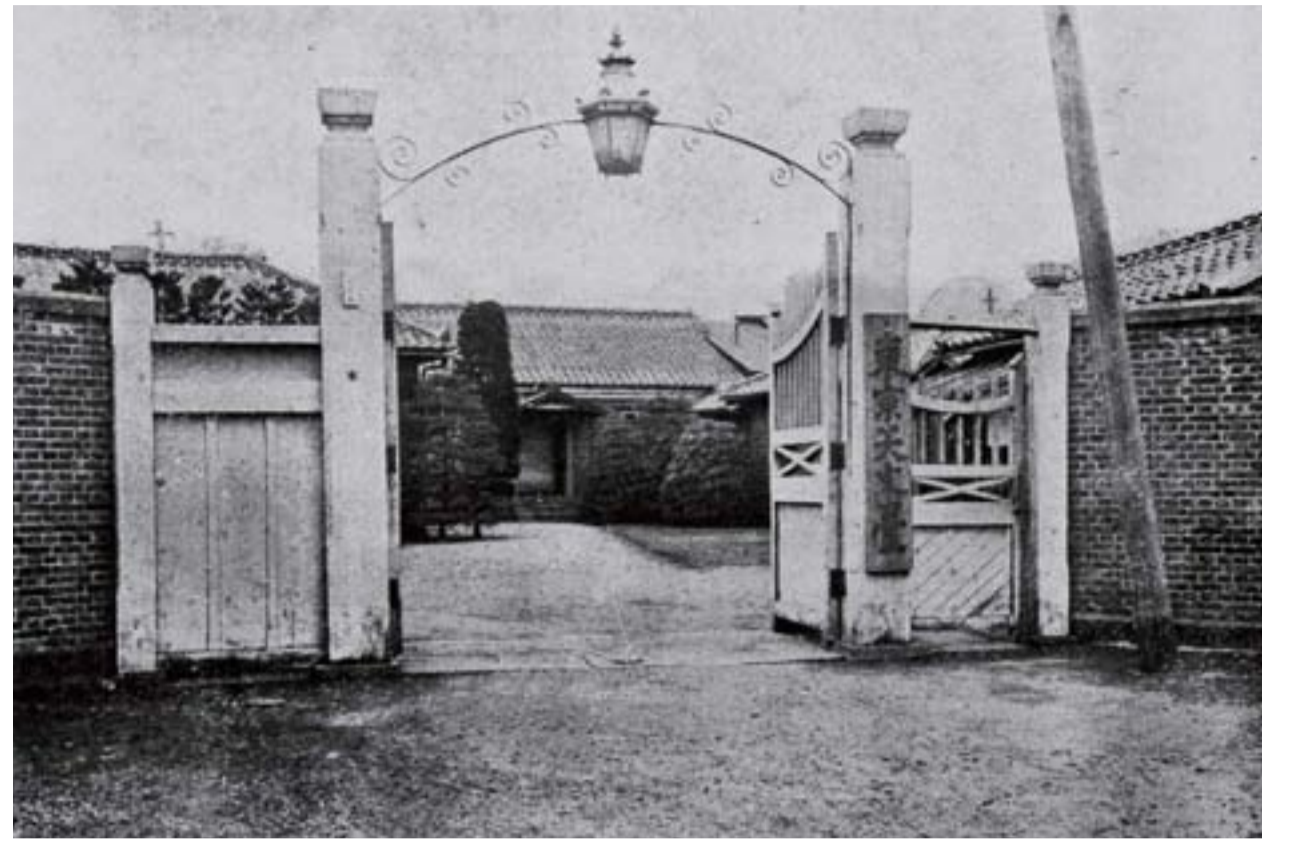
日本経緯度原点 (麻布台 2 丁目)

明治 40 年

日本の天文測量が始まった場所として、科学技術史及び文化史上、意義深い場所。



出典：東京写真帖



出典：東京写真帖

ここには日本の経度・緯度を定める基準となる日本経緯度原点が設置されている。

明治 7 年、海軍の観象台が置かれた。明治 21 年に内務省地理局の天文台と合併し、東京帝国大学附属東京天文台となった。原点の位置は、天文観測用に用いられた機器である「子午環」の中心位置にあたる。

その後、大正 13 年、都市化とともに観測に適さなくなった東京天文台は、現在の三鷹に移転したが、子午環跡は国土地理院が日本経緯度原点として引継ぎ、現在も日本の地図測量の原点として利用されている。



平成 21 年

現在は、国土地理院関東地方測量部が管理。花崗岩の台石に金属板をはめ、+印の位置地点の表示がある。

東経 139 度 44 分 28 秒 8759
北緯 35 度 39 分 29 秒 1572



アメリカンクラブ（麻布台2丁目）



昭和46年

写真提供：東京アメリカンクラブ

現在建築中の2代前の建物。昭和3年（1928年）に設立された東京アメリカンクラブは、昭和29年に麻布台2丁目（当時：麻布狸穴町）に移転してきた。



平成21年

現在はクラブハウスの老朽化に伴い、建替えプロジェクトが進められている。

江戸時代の観光名所 赤羽橋 浮世絵から現代



昭和 34 年：赤羽橋

写真提供：港区立港郷土資料館



「増上寺塔赤羽根」

『名所江戸百景』

初代・歌川広重作

(改印=安政 4 年 1 月)

増上寺の一角にあった五重塔をかすめて、赤羽川（古川）の向こうを望む構図。

塔は昭和 20 年、戦災で焼失した。川の左手に描かれているのは久留米藩*有馬公の上屋敷。後方には同藩の火の見櫓と水天宮（幟が数本立つ）が見える。

(*現在の福岡県南部)



出典：『平成 18 年度特別展 UKIYO-E -名所と版元-』

(左上)平成 22 年：赤羽橋から麻布方面を望む。

六本木ヒルズをはじめとする高層ビルが立ち並ぶ。

(左下)平成 22 年：赤羽橋交差点

古川の上を首都高速が通る。上空からは川を見ることができない。

江戸時代の観光名所 飯倉交差点付近 浮世絵から現代



明治 40 年：飯倉四辻

出典：『東京案内』



平成 22 年：飯倉交差点
不思議な形をした「NOA ビル」。



昭和 34 年：飯倉交差点

写真提供：港区立港郷土資料館



平成 22 年：赤羽橋へ下る小道
の途中で見えた東京タワー。



「飯倉四ッ辻」

『東京名所四十八景』

昇斎一景作(明治 4 年)

現在の飯倉交差点は交通の要衝であるが、画中には町人や行商人など、様々な人びとが行き交う様子が描かれている。絵の左下に見えるのは江戸湾(現東京湾)。

出典：『平成 18 年度特別展 UKIYO-E - 名所と版元 - 』



平成 22 年：飯倉交差点から赤羽橋方面を望む。

右上に見える「319」の表示は、東京都道 319 号環状三号線の標識。

江戸時代の観光名所 赤羽橋（空からの麻布） 江戸図絵から現代



「赤羽」

出典：「江戸名所図会」港区立港郷土資料館所蔵



平成 23 年：六本木ヒルズ展望台から左の「江戸名所図会」の方向に近いように撮影した現在の風景。



昭和 39 年頃：上空から見た六本木 5 丁目付近

写真提供：東洋英和女学院



平成 23 年：浜松町貿易センタービル展望台から麻布方向を望む。

赤羽橋（空からの麻布）

江戸末期に長谷川雪旦により描かれた「江戸名所図会」の「赤羽」は、現在の赤羽橋付近を中心に、高所から見下ろしたように描かれ、海が現在と比べ近くにあった様子がうかがわれる。

絵図の中央下に見える心光院は移転されている。

この絵図から、視点を変えて、高所から見た麻布について着目してみた。

平成 23 年：六本木ヒルズ展望台からの眺め。熱帯魚「カクレクマミノ」との風景。



文人の足跡をたずねて(永井荷風)



昭和 54年(1979年)：
偏奇館跡近景(永井荷風旧居跡)

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏

大正 9年(1920年) 麻布市兵衛町一丁目に新築した木造二階家に移り住んだ荷風は、その家がペンキで塗られていたことから「偏奇館」と名づけ、障子・襖・畳のない、台所を広くした洋風の家の中で、隠棲するような暮らしを始めた。

大正 12年には関東大震災が起きましたが、偏奇館は無事だった。昭和初期からは執筆意欲が旺盛になり、『つゆのあとさき』、『ひかげの花』、『濹東綺譚』など数々の代表作が、ここで生み出された。しかし昭和 20年(1945年) 3月 10日の東京大空襲で焼失し、荷風は蔵書などほとんどのものを失った。26年にわたる偏奇館時代は終わりを告げ、その後荷風が港区に戻ることはなかった。現在は泉ガーデンとなり、石碑が立っている。

荷風は「偏奇館漫録」と題した文章のなかで、「独居に便なり」「隠棲に適せり」「独り窓に倚るも愁思少し」「徐(をもむろ)に病を養ひ静かに書を読むによし」「午睡を貪るによし」などと記している。



平成 23年(2011年)：永井荷風旧居跡[六本木 1-6]



昭和 54年(1979年)：
突き当たり右が偏奇館跡

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏

文人の足跡をたずねて（島崎藤村）



平成 23年(2011年) :

島崎藤村旧居跡[麻布台 3-4-17]

麻布飯倉片町 33番地にあたり、藤村が大正 7年(1918年) から昭和 11年(1936年) まで 18年間住んでおり、名作『夜明け前』はこの間に執筆された。

当時発表された「飯倉附近」という随筆で藤村はこのように書いている。「よく見れば、この附近には新開の町なぞにないやうな特色の深い小路もある。飯倉二丁目の裏手に隠れてゐる路地、飯倉三丁目にある熊野神社の近くから舊天文臺[旧天文台]の方へ登らうとする細い坂になった小路などは、私の好きなところだ。舊[旧] 稲葉邸の角から我善坊の方へ通ふ静かな横町も悪くない。就中、この辺の昔を語つてゐるのは飯倉一丁目の雁木坂であらう。坂の名をガンギといふそのいはれはよく分らないが、駕籠で往来した時代の名残をそこにありありと見ることが出来る。足を踏みしめ踏みしめ昇降したらしい駕籠かきの歩いた路は、あの刻んであるやうな古い石畳みの階段に残つてゐる。」 ※平成 25年 1月現在、石碑はありません。



平成 22年(2010年) :
島崎藤村旧居跡



昭和 50年(1975年) : 写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏
島崎藤村旧居跡

麻布十番と周辺の山坂(鼠坂)



昭和 59年(1984年)：
鼠坂 坂下から



平成 24年(2012年)



昭和 50年(1975年)：鼠坂 坂下から



平成 24年(2012年)

狸穴公園の脇から麻布台に上がる細い坂道。上部は植木坂、鮑(いたち)坂とつながっている。
江戸時代には狭く細長い坂を「鼠坂」と呼んだそうで、文京区音羽や新宿区市ヶ谷にも同名の坂がある。『鬼平犯科帳』の「麻布一本松」では、火付盗賊改方の役人が刺客の浪人とこの坂で刃を交える。小説でも、実際と同様の崖沿いの細い坂道として描かれているので、作者の池波正太郎は、きっと、この坂を実見したうえで書いたのだろう。



このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

麻布台と周辺の山坂(土器坂)



昭和 50年(1975年)：土器坂 坂下から



平成 25年(2013年)



昭和 50年(1975年)：土器坂 坂上から



平成 25年(2013年)



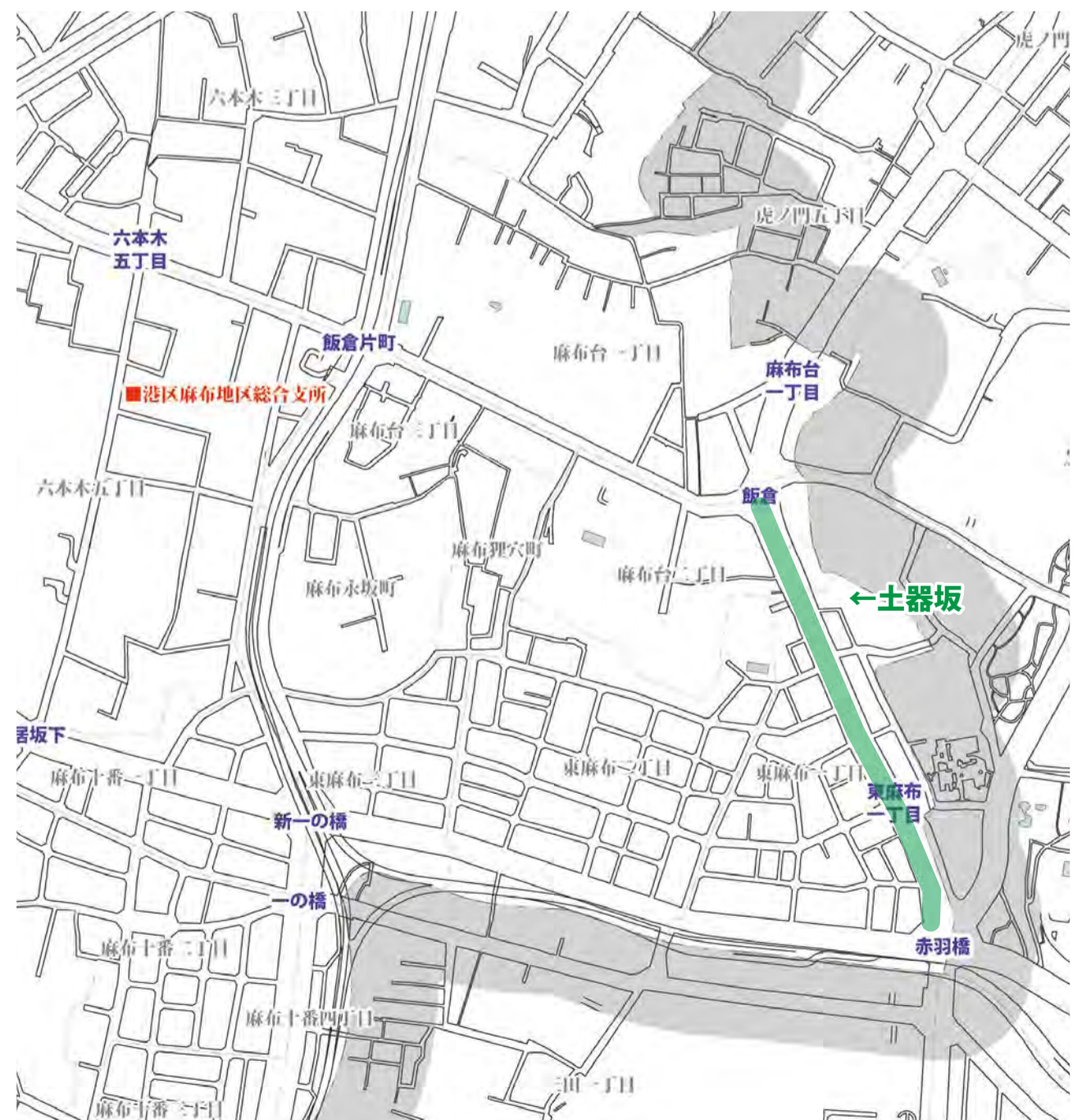
昭和50年(1975年)
：土器坂 坂下から



平成25年(2013年)

このあたりに土器職人が住んでいたのが坂名となった。また、平安中期の武将渡辺綱が、ここで買い求めた馬が河原毛で名馬だったからという説もある。

大正の作家で、三田文学を復活した水上瀧太郎は土器坂上ロシア大使館辺りのお屋敷の子だった。「崖上から崖下の子供達を見つめる。一緒に遊びたいが気後れしている。熊野神社が子供達の遊び場所であった。」(『山の手の子』より)



参考資料：港区産業観光ネットワークMINATOあらかると(<http://www.minato-ala.net/>)など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

麻布台と周辺の山坂(三年坂)



昭和 50年(1975年)：三年坂 坂上から



平成 25年(2013年)

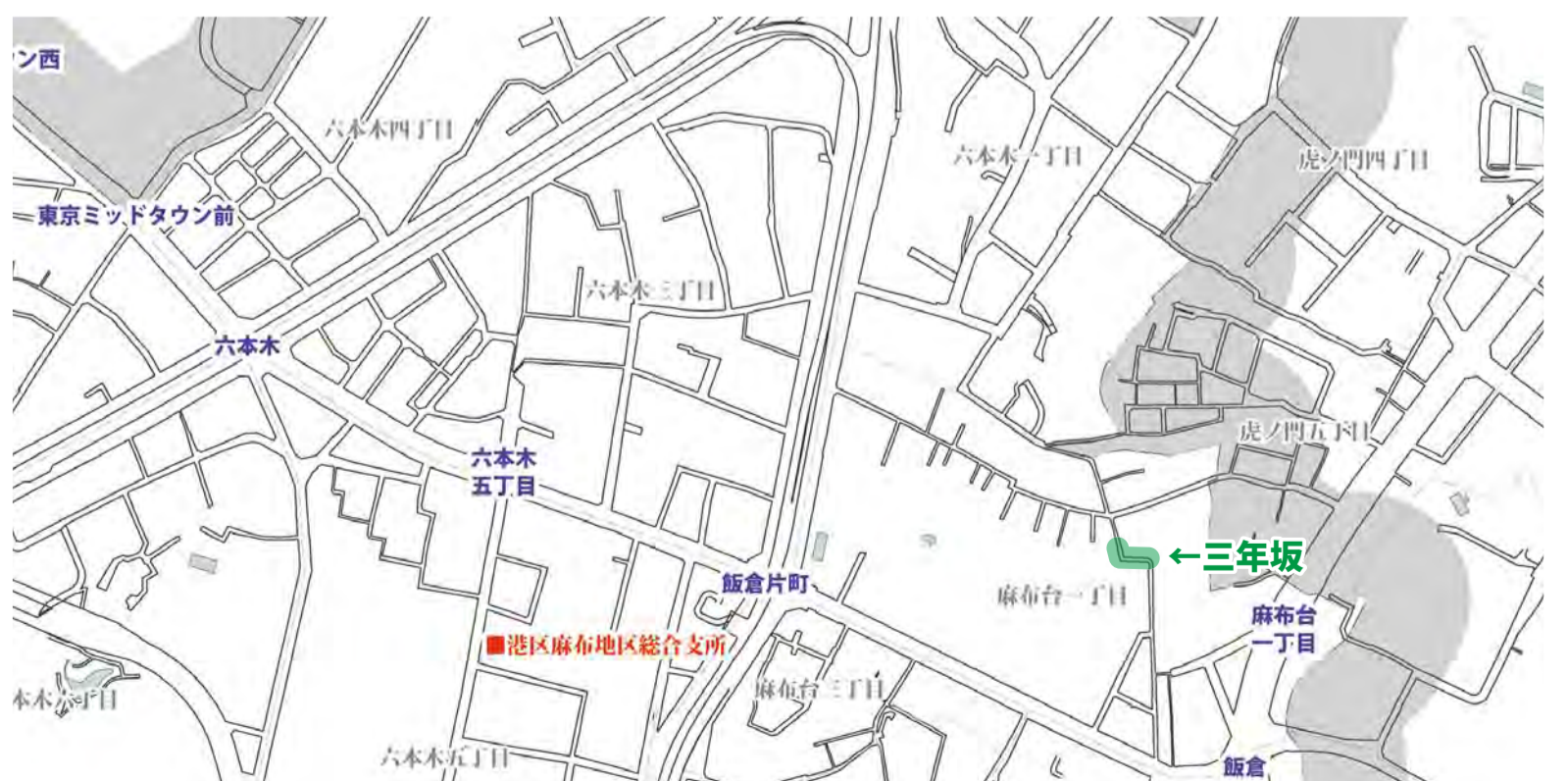


昭和 50年(1975年)：三年坂 坂下から

坂の名前の由来は定かではない。江戸時代には無名の坂だった。まずこの坂があり、のちに石段になった模様。また、三年坂は別名「三念坂」などとも呼ばれ同じ名前の坂がほかに数箇所ある。



平成 26年(2014年)



参考資料：港区産業観光ネットワークMINATOあらかると(<http://www.minato-ala.net/>)など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

西麻布と周辺の山坂(牛坂)



昭和 50年(1975年) : 牛坂 坂下から



平成 25年(2013年)



昭和 50年(1975年)
: 牛坂 坂下から



昭和 59年(1984年)
: 牛坂 標柱近景



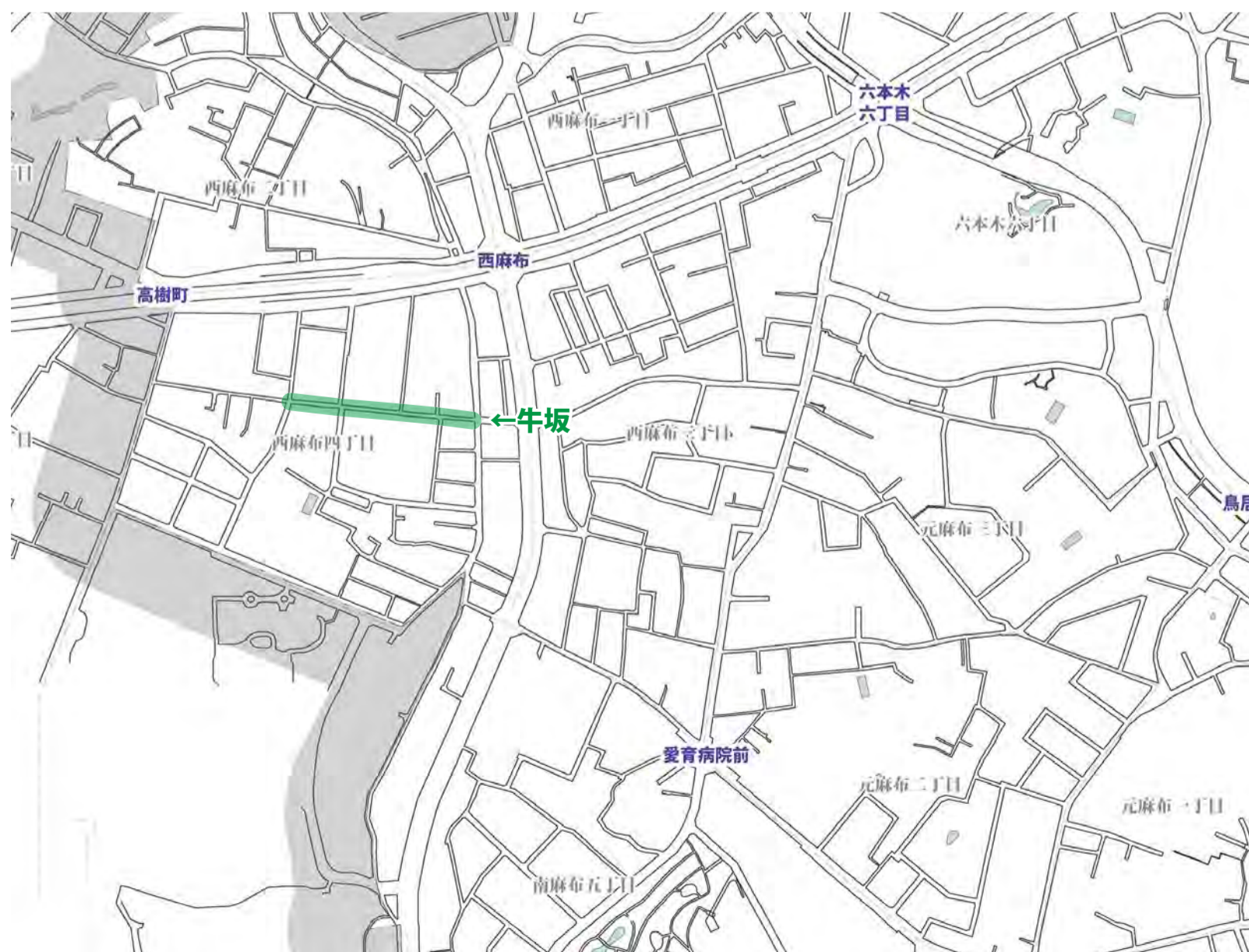
平成 25年(2013年)



平成 25年(2013年)

源経基(平安中期の武将)や白金長者(室町時代に白銀地区を開墾した柳下上総介)の伝説のある筭橋に続く古代の交通路で、牛車が往来したためと想像される。

参考資料:港区産業観光ネットワークMINATOあらかると(<http://www.minato-ala.net/>)など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏



西麻布と周辺の山坂(大横丁坂)



昭和 50年(1975年)：大横丁坂 坂上から



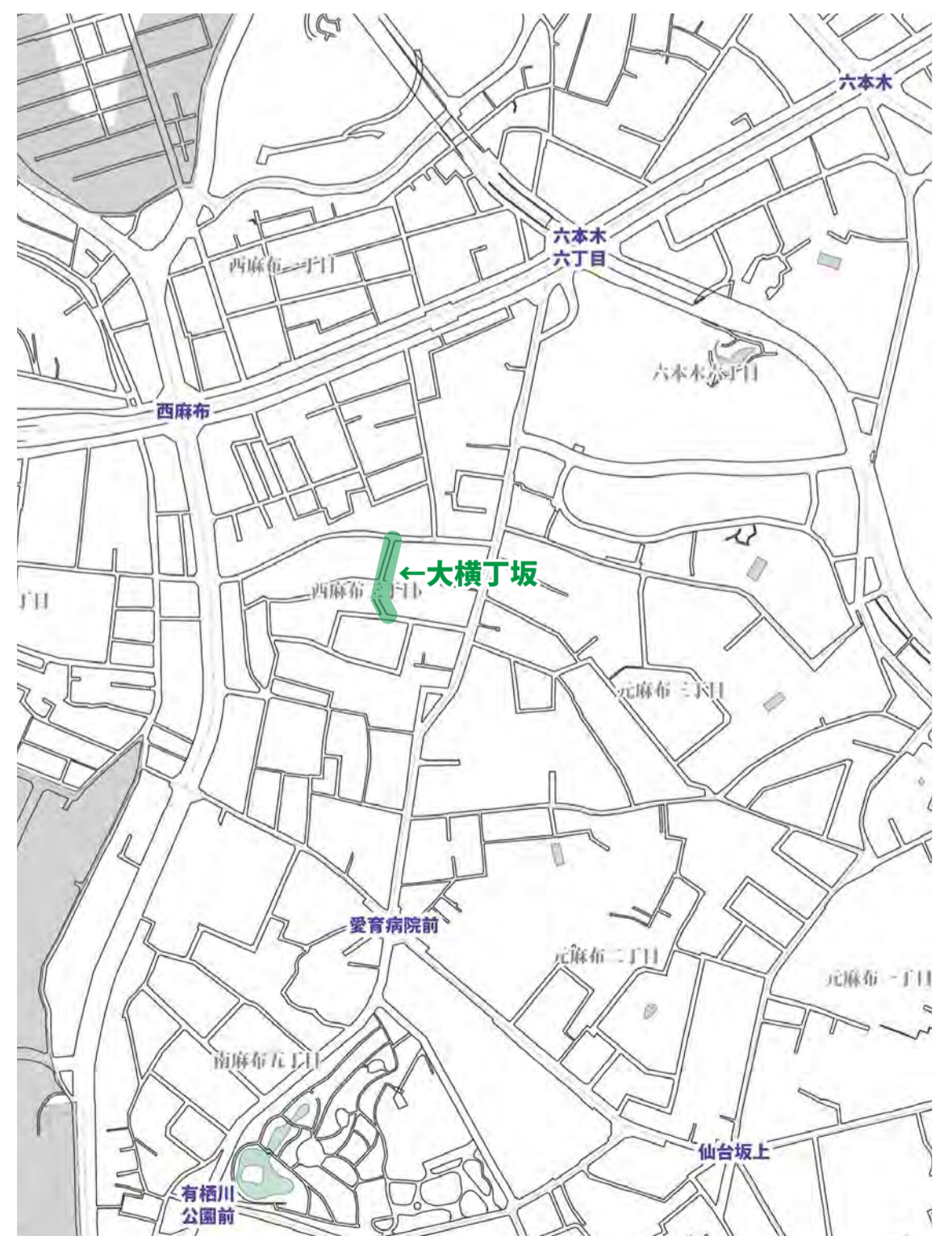
平成 25年(2013年)



昭和 50年(1975年)
：大横丁坂 坂下から



平成 25年(2013年)



江戸時代、この付近を俗に大横丁と読んでいたことからこの名が付いた。富士見坂ともよばれていた。

参考資料：港区産業観光ネットワークMINATOあらかると(<http://www.minato-ala.net/>)など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

西麻布と周辺の山坂(中坂)



昭和 50年(1975年)：中坂 坂下から



平成 25年(2013年)

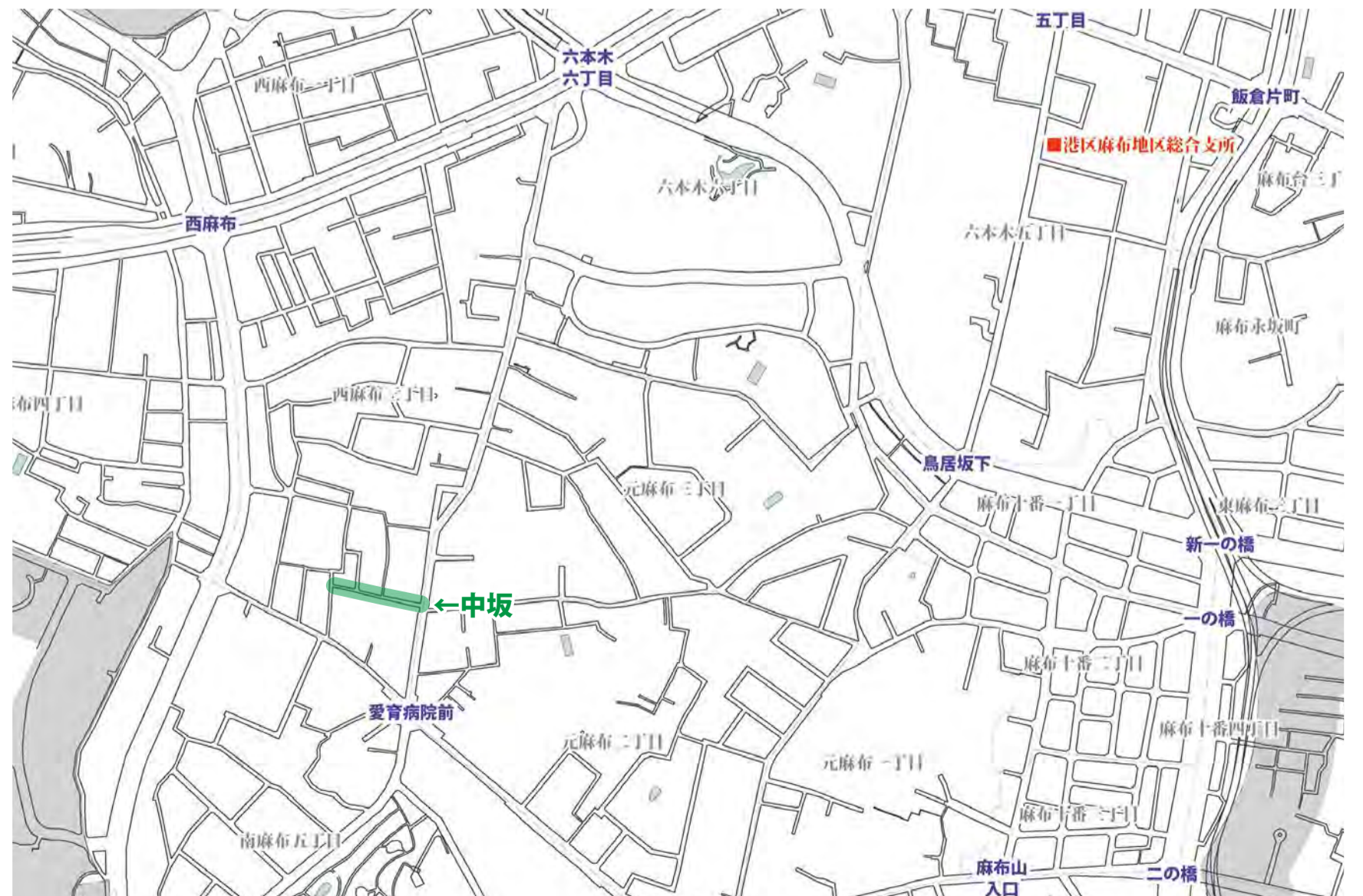


昭和 50年(1975年)：中坂 坂上から



平成 25年(2013年)

テレビ朝日通りを西へ下る坂道。紺屋坂と北条坂の間にある坂。



参考資料：港区産業観光ネットワークMINATOあらかると(<http://www.minato-ala.net/>)など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏